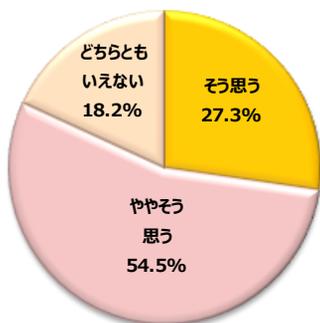


この度は「SRCのための調査活用セミナー」にご参加いただき、誠にありがとうございました。
 セミナー終了時に参加者様にご記入いただいたアンケートとグループ発表の内容をまとめましたので、
 開催結果としてご報告いたします。

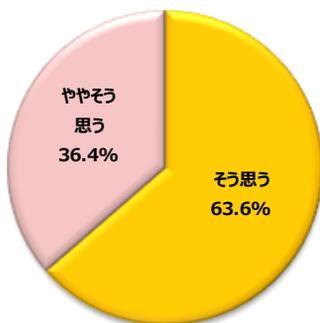
(出席者：11人 回答者数：11人)

■アンケート集計

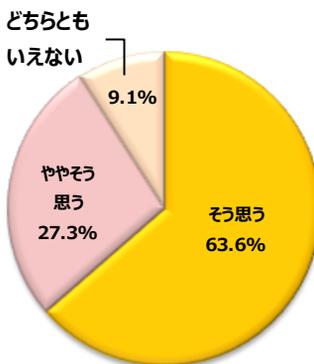
●今回のセミナーへの期待は大きかったですか？



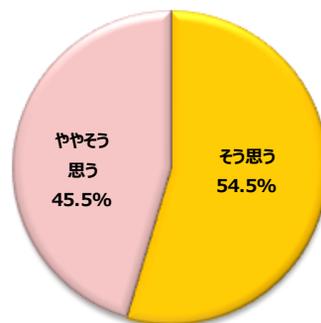
●講師のレクチャーはわかりやすかったですか？



●セミナー全体として満足されましたか？



●今後同様のセミナーがあれば、他の組合員(役員)も参加させたいですか？



■感想コメント 日頃の“調査活動に活かせる”とのご意見を多数頂きました！

- 意識調査を実施するうえでの心得や、何に着目するのかが理解できた。
- 調査項目、選択肢の構成など具体的に説明していただいたので、**実際の設問設計に活かせる**と感じた。
- 調査において**どうしたいのか、ありたい姿**をしっかりと持って、**意識と目的を調査側全員で共有し設計**していくことが大事だということを学べた。
- 過去の担当者が少しづつ変更を入れていてよく分からなくなっていた設問があり整理が必要と考えていたが**全体的に非常に参考**となった。
- 調査担当になり、各調査に**不安がありました**が解消できました。
- 初めての受講でもあり、**自身の考えの整理や気づきにもつながり**、自組織の調査については組合参画(関与)の取り組みについても活かしていきたい。
- 今後調査を行ううえで、**学んだことを意識して実施**していきたい。

- 意識調査の手法をよく理解できた。
- SRCについてより理解**することができた。
- 具体例や実践ワークがあり、**分かりやすかった**。
- データの分析方法等も教えてもらえるとありがたい。

他にも多くのご意見をいただきました。
 ありがとうございました。



【事務局より】今回は5組織11名の方にご参加いただきました。講義とグループワークを通じて意識調査の重要性、実施・活用するうえでのポイントを掴んでいただけたと思います。セミナーの内容については組織内で共有いただければ幸いです。今後ともよろしく願っています。

株式会社 応用社会心理学研究所 (事務局:末田、藤原)

〒540-0031
 大阪市中央区北浜東1-8 北浜東森田ビル5F
 Tel:06-6941-2171 Fax:06-6941-2081



【調査を踏まえたアクションの実例】

Aチーム

注目した調査結果とその解釈

- ・情報量が多かった
- ・女性の関与が低い = 女性は子育てなどがあり、関与が下がる
- ・食品労組の関与意識が高い
- ・社会的視野の拡大が組合関与に影響を与える

アクションの具体的内容

(誰が・何を・どうやって変えていくか／関与の視点)

- ・執行部が食品労組と関わりを持つ = 異業種交流
食品労組とコネクションを作り、そこに若手男女を巻き込む。
⇒ 合コン、交流により、執行部がアンテナを張り、リーダーとなる人を育成

★講師コメント：

- ・単組の調査も項目が多くなりがち = 情報量が多くなります。その場合は、仮説やモデルに立ち返り「なぜこの調査をやりたいのか」に戻ることで、何が見たいのかが絞られます。
- ・「視野と人的交流」 = 組合に関わることで知らなかった世界が広がった、組合でないと関われなかった人と知り合えたと感じると組合関与が上がります。異業種間交流は労働組合の一つの強みですね。

Bチーム

注目した調査結果とその解釈

- ・女性の関与が低い ⇒ 底上げをしたい
何故関与が低いのか？ ⇒ 強制参加にネガティブ = 古い体質というイメージで入りにくい
- ・食品労組の関与が低い

アクションの具体的内容

(誰が・何を・どうやって変えていくか／関与の視点)

- ・女性執行委員を登用し、女性が楽しいと思うような活動を企画 ⇒ 女性が楽しそうに活動
⇒ 男性も関わりたくなる
- ・食品労組との交流会でいいイメージを持たせる

★講師コメント：

- ・強制参加への嫌悪感に着目されましたが注意が必要です。単に個人の好き嫌いではなく、集まることの意味を説明しないがために「強制参加だ」と思われているケースがよくあります。
- ・「いいイメージを持たせる」というのは、まさにポジティブなソーシャル・リアリティ・コントロール。「組合、なんだか面白そう」「楽しそう」と思わせることは、ポジティブなリアリティを作り出しているということ。ぜひ取り組んでください。

【調査を踏まえたアクションの実例】

Cチーム

注目した調査結果とその解釈

- ・製造業で男性が多い
- ・20代は関心が高いが、女性の関心は低い
- ・女性は強制参加が好きではない ⇒ 昔ながらの活動を変えていない



アクションの具体的内容

(誰が・何を・どうやって変えていくか／関与の視点)

- ・女性目線の活動 = 場所、時間、活動(集会を昼休みに実行、食事つきなど)
- ・職場を牛耳っている女性をサポート役として巻き込む
- ・自由参加のイベントを作る。運営側に少しの役でもいいから参加してもらおう = 自分たちが作ったイベント
- ・組合活動への参加をポイント制にする = ポイントがたまると執行部にご招待。景品がもらえる？

★講師コメント：

- ・この組合関与の低さから考えれば、組合活動に巻き込もうとする組合の執行部はいわば少数派。少数派が多数派に影響を与えるためにキーパーソンを巻き込むことは、有効な方法です。
- ・ポイントの景品は、ぜひ「執行部にご招待」を推してほしいですね。